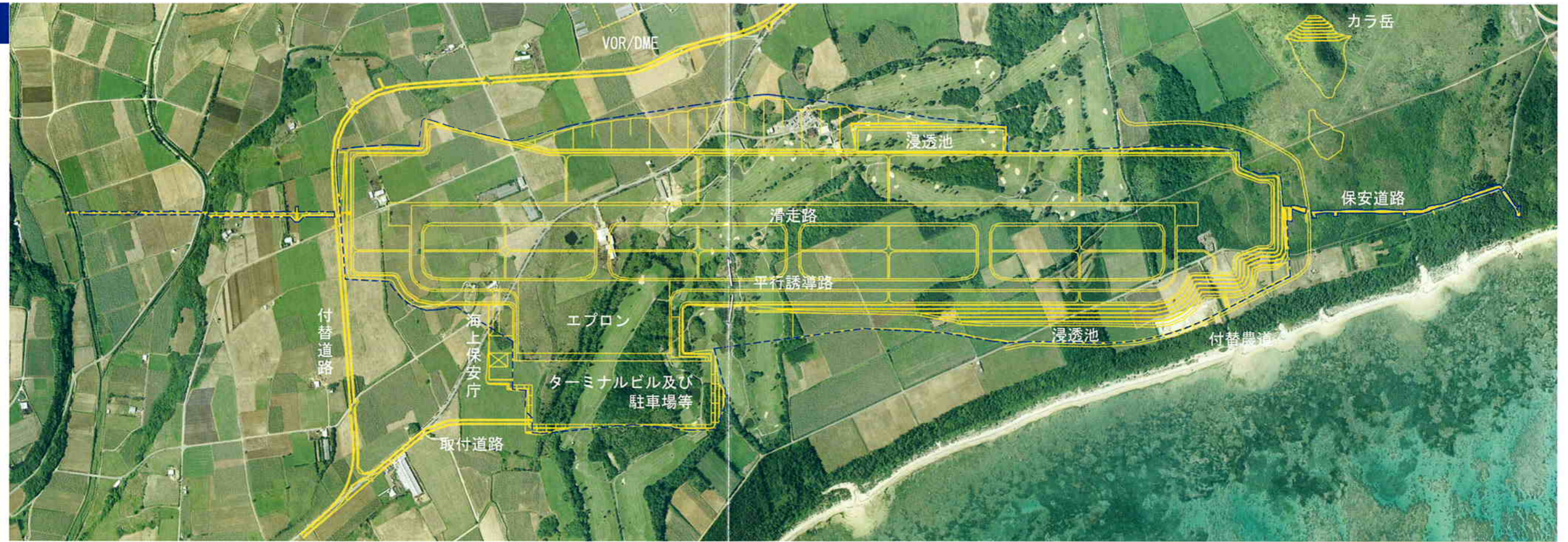
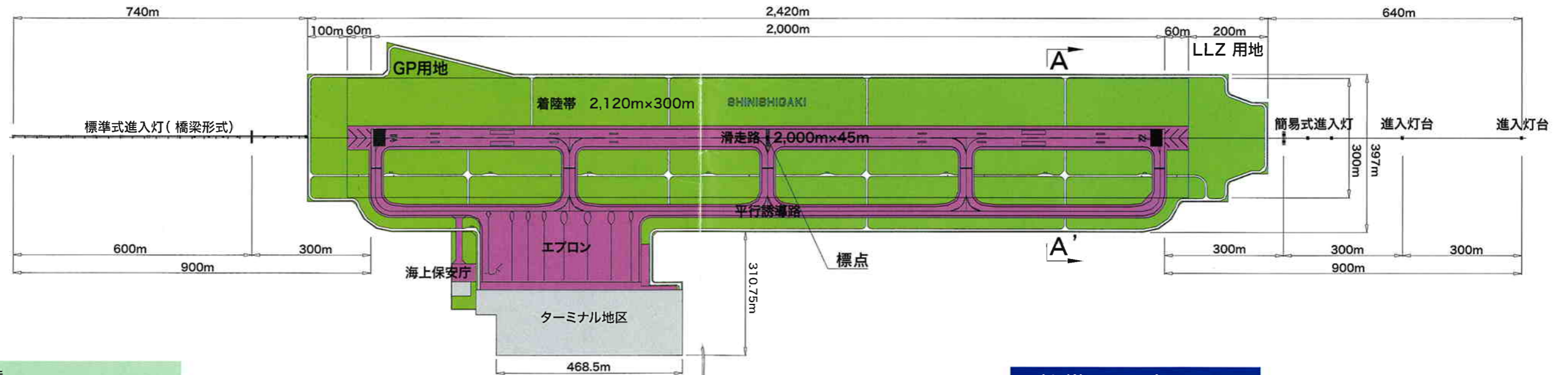


全体平面図



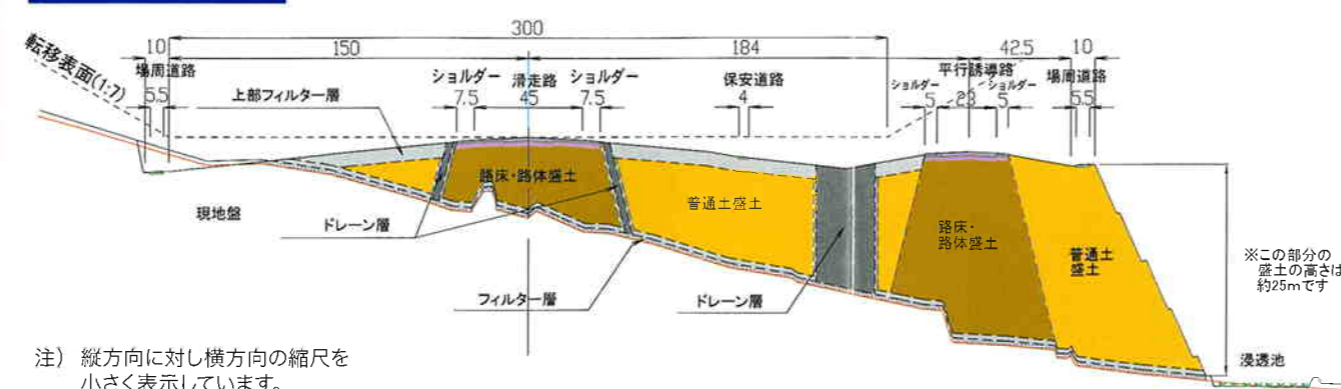
計画平面図



計画概要

- 飛行場名 : 新石垣空港
- 飛行場種別 : 第三種空港
- 設置管理者 : 沖縄県
- 標点の標高 : 31.0m
- 着陸帯 : 長さ2,120m、幅300m
- 滑走路 : 長さ2,000m、幅45m
- 誘導路 : 長さ2,318m、幅23~30m
- エプロン : 75,145m²
- パー ス 数 : 中型ジェット機用 (B-767等) 3バース
小型ジェット機用 (B-737等) 4バース
プロペラ機用 (DHC-8等) 1バース
- 航空保安無線施設 : ILS、VOR/DME 他
- 航空灯火 : 標準式進入灯、簡易式進入灯 他
- 総事業費 : 約420億円

標準横断図 (A-A'断面)



注) 縦方向に対し横方向の縮尺を小さく表示しています。

整備スケジュール

項目	年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
1. 飛行場設置許可		●							
2. 実施設計調査、モニタリング調査等			■	■	■	■	■	■	■
3. 土木工事			■	■	■	■	■	■	■
4. 照明工事					■	■	■	■	■
5. その他工事					■	■	■	■	■
6. 供用開始									●

※スケジュールは空港整備事業費などの都合により変更することがあります。

自然環境の保全のために

新石垣空港の事業地及びその周辺地では、天然記念物や希少種などの様々な動植物の生息、生育が確認されるとともに、周辺の海域では多様なサンゴ礁が広がっています。新石垣空港の整備にあたっては、これらの豊かな自然環境の保全を図ることを最優先の目標として取り組んでいます。

そのため、環境影響評価については、学識経験者・自然保護団体等で構成する「環境検討委員会」、「建設工法検討委員会」、「小型コウモリ類検討委員会」を設置し、専門家の指導・助言を得ながら環境保全措置や事後調査(モニタリング)等の環境保全対策について検討を行ってまいりました。

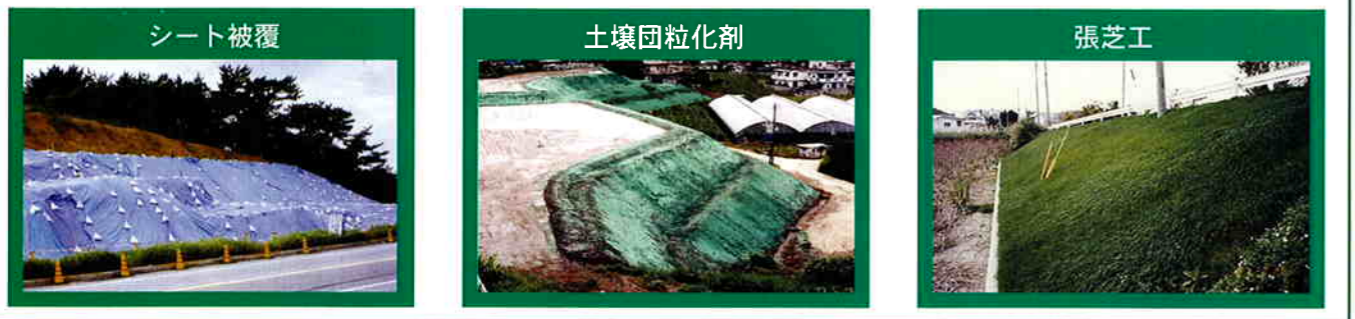
また、建設工事の実施にあたっては、環境影響評価書に基づき環境保全対策を適切に実施するとともに、専門家の指導・助言を得ながら、環境影響の回避・低減措置を図ってまいります。

○赤土等流出防止対策

事業地周辺では、轟川流域からの赤土等(濁水)の流出による白保海域のサンゴ礁の生態系への影響が社会問題となっている状況から、本事業の赤土等流出防止対策では濁水を海域に直接流出させないことを基本として、工事中は①発生源対策、②浸透池・調整池の設置、③機械処理方式を組み合わせて以下のとおり保全対策を実施していきます。

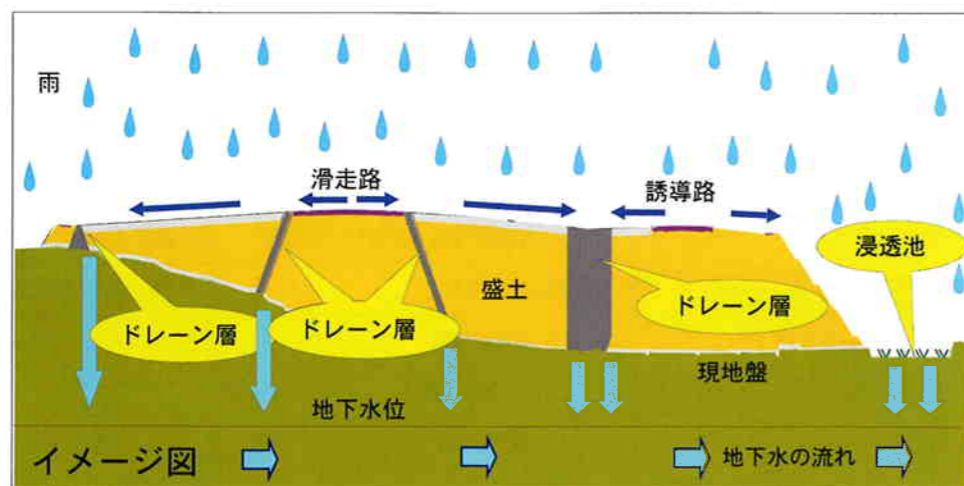
1. 土工事は、年度毎に施工エリアを分割することで、裸地面積を小さくし、土砂の流出を抑えます。
2. 工事区域内で発生する濁水については、基本として浸透池、調整池において地下浸透処理します。
3. 調整池の浸透能力を超える濁水については、機械処理方式により、SS濃度25mg/l以下(県条例の排出基準SS濃度200mg/l)に処理して轟川に放流します。
4. 工事中は「建設工法モニタリング委員会(仮称)」を設置し、赤土等流出防止対策が所要の機能を発揮していることを確認していきます。

発生源対策の例



○地下水保全対策

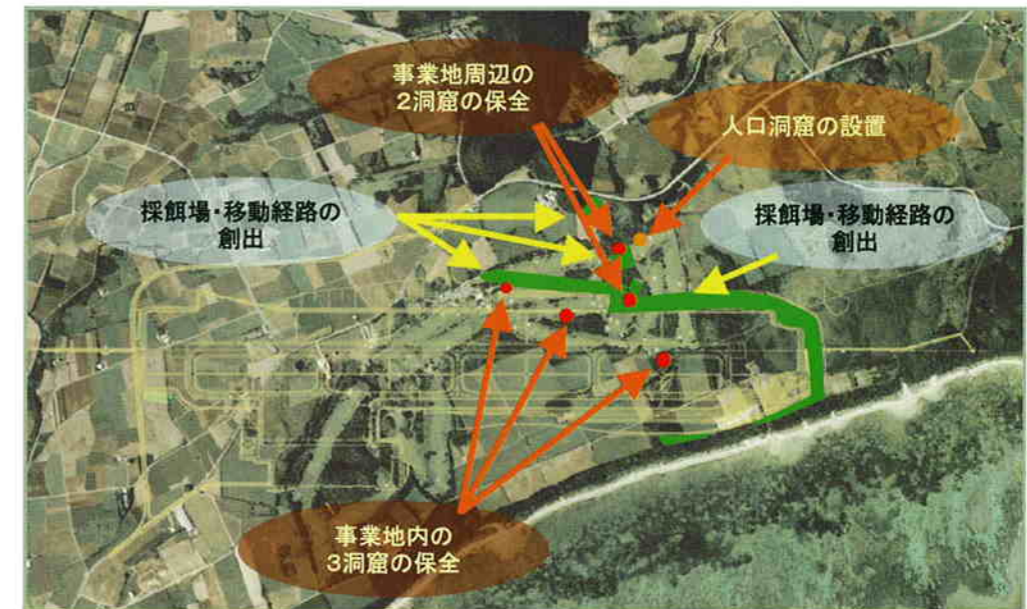
供用後の空港に降った雨は、透水性区域では基本として地下へ浸透させ、現在の地下水位を保全します。そのため、空港盛土構造内に雨水を地下浸透させる浸透層(ドレーン層)や、空港本体に隣接して浸透池を設置します。



○小型コウモリ類の保全対策

事業地およびその周辺地にある5洞窟において、ヤエヤマコキクガシラコウモリ、カグラコウモリ、リュウキュウユビナガコウモリの3種類の小型コウモリの生息が確認されていることから、次の保全対策を行います。

1. 採餌場や移動経路としての緑地(グリーンベルト)を創出します。(幅50m程度)
2. 出産・哺育の時期(5月~8月)や休眠時期(12月~3月)は、工事に一部制限を行って、工事に伴う騒音・振動の影響を低減します。
3. 小型コウモリ類が利用可能な人工洞を設置します。
4. 洞窟周辺の用地を取得して、周辺環境の保全を図ります。一部改変される洞窟については、小型コウモリ類が利用可能となるよう、新たな洞口を設けるなどの対策を行います。



○貴重動植物の保全対策

事業実施区域内で確認された重要な植物や動物については、次のような保全対策を実施します。

1. 小型ハナサキガエル類等については、新たに生息環境(ビオトープ)を創出します。
2. 貴重植物については、ゴルフ場残地内の類似環境である生息環境に適した土地へ移植します。
3. カムリワシの生殖・繁殖行動への影響を回避・低減するため、カタタ山等に設置する航空障害灯の工事は人力作業を基本とし、繁殖期を避けて、雛の巣立ちから次の繁殖シーズンが始まる前(9月~11月)に行います。

